

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「なんて いおうかな」 教材名「なんて いおうかな」

2 単元の目標

丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)キ）

身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（A(1)ア）

場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（〔知識及び技能〕(1)キ）	①「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア）	①場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える。この教材では、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。想定する難しさは、発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。評価では、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいるかを、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教師作成の学校生活の場面で、伝えたいことと相手を確認める。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教師作成の学校生活の場面で、伝えたいことと相手を確認める。言葉を選んで声に出し、聞き手が受け取った意味を返す。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A
(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「この相手には、どんな言葉と声で伝えたいですか」 【めあて】場面や相手に合わせ、挨拶やお願いの言葉を選んで伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・近くの友達なら大声はいらない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この相手には、どんな言葉と声で伝えたいですか」 教師作成の学校生活の場面で、伝えたいことと相手を確認める。言葉を選んで声に出し、聞き手が受け取った意味を返す。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・近くの友達なら大声はいらない。 ・大事なところはゆっくり言いたい。 ・聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。	教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発音が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。 想定する難しさ：発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。 評価では、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいくかを、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この相手には、どんな言葉と声で伝えたいですか」。中央は、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

